主要事業評価シート(第1次実施計画/H29・30・R1年度)

① 基本事項	計画コード	事業名		部名	生活文化部
	17065	観光協会運営支援事業		課名	地域観光課 観光交流G
	施策の大綱	03:交通拠点性を生かした都市活力の向上		財務科目	01:一般会計
	基本施策	04:まちづくり観光の推進			07:商工費
	施策の方向	01:持続可能なまちづくり観光の推進			01:商工費
戦略プロジェクト	-		03:観光費		
事業予定期間	H 21 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等	亀山市観光協会への補助金交付基準		

② 目的・概要	対象	一般社団法人亀山市観光協会
	目的	まちづくり観光のコーディネート力、推進力を確保するため、亀山市観光協会の円滑な運営支援と組織力の強化を図る。
概要	観光協会への財政的支援を行うとともに、観光協会主催イベントの開催支援やポスター、パンフレットの印刷、ホームページ運営など情報発信、フィルムコミッションの立ち上げ及び運営等に対する支援を行う。また、観光協会事務所移転、組織体制等の検討を行い組織の基盤強化を目指す。	

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
③ 事業の計画・実績	年度計画	○亀山市観光協会の運営支援 ・観光案内(関、亀山の観光案内所対応) ・観光情報の発信 ・フィルムコミッション設立準備委員会の運営 ・DMOの設立検討 ・観光協会事務所移転等の検討	○亀山市観光協会の運営支援 ・観光案内(関、亀山の観光案内所対応) ・観光情報の発信 ・フィルムコミッションの運営 ・亀山版DMOの設立検討	○亀山市観光協会の運営支援 ・観光案内(関、亀山の観光案内所対応) ・観光情報の発信 ・フィルムコミッションの運営 ・亀山版DMOの設立	
	年度実績	○30年度のフィルムコミッション設立に向けての事務支援の実施 ○観光協会HPの更新及び細やかな情報更新の実施 ○観光協会事務所移転に向けた、事務所、駐車場、関宿の公共施設の利活用等の検討	○フィルムコミッションの設立及び運営 ○観光協会HPの更新及び細やかな情報更新の実施 ○観光協会事務所移転に向けた組織検討委員会、クルーズ船対応等の企画委員会を設置し、分野ごとに協会員が事業検討会を実施		
事業の計画・実績	計画額	事業費	18,200千円	18,700千円	18,700千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	17,700千円	17,700千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	決算額	事業費 ①	17,700千円	17,392千円	
		国庫支出金			
県支出金					
地方債					
その他					
人件費	一般財源	17,700千円	17,392千円	0千円	
	総人件費 ②	2,304千円	2,335千円		
	一般職員	2,304千円	2,335千円		
	所要人員	0.30	0.30		
	臨時職員等	0千円	0千円		
総コスト(①+②)		20,004千円	19,727千円		
受益者負担率		0.0%	0.0%		

			平成29年度	平成30年度	令和元年度	
④ 指標	①	名称 観光入込み客	計画値	150,000	165,000	180,000
		市内の観光関連施設等への入込客数	実績値	128,944	130,519	
			単位	人	人	人
②	名称 ホームページ閲覧数	計画値	60,000	72,000	84,000	
	ホームページ閲覧数	実績値	90,021	137,209		
		単位	回	回	回	
③	名称	計画値				
		実績値				
		単位				

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 観光協会の運営基盤の強化については、事務所、駐車場、関宿の公共施設の具体的な費用対効果と活用の検討が必要。それにより、新たな訪問客の動線が構築され、関宿での観光の魅力が高まる。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 観光協会において、協会員による専門部会として組織検討委員会を立ち上げ、研修会、視察、現地調査を実施し、事務所移転先の意見交換会を行った。

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 関宿のにぎわいのための活性化委員会、クルーズ船の誘客活動などの取り組みのため企画委員会が設立され、昨年9月には津港に寄港した日本丸のショートツアーとしてバス7台230名を誘客した。 また、亀山市フィルムコミッションが9月末に設立し、対外発信には必須のHPが作成され、市の魅力発信と撮影地の地名度向上に向けた取り組みが行われている。このフィルムコミッションの設立により、多くの団体、企業が関連し、裾の広い組織体が形成されることになり、亀山版DMOの礎となると考える。	B まずまず実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 HP閲覧数は順調に増加しており、観光入込客は目標値には届かなかったが、猛暑等の環境変化に関わらず滞留型施設である玉屋資料館、石水溪キャンプ場は入込客数は増加に転じた。 (観光客数値対象施設: 歴史博物館、玉屋資料館、石水溪キャンプ場、道駅関宿)	B まずまず成果を得た

⑦ 今後の対応方針	課題	【課題は何か】 観光協会の運営基盤の強化については、最適な観光案内のために、訪問客の動線を読み、協会が独自に収益が得られる仕組みづくりを検討する必要がある。	今後の方向性 ☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 引き続き、観光案内、組織運営の在り方を、観光協会の専門部会である活性化委員会、企画委員会、組織検討委員会で検討していく。行政も各委員会に参画して支援を行っていく。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 新たな訪問客との交流が促進され、特に関宿での観光の魅力が高まる。しかしながら、観光客は天候や交通事情により、増減するもので、長期的に効果を見ていくべきである。	
対応時期		令和元年度	

【1次評価者】	生活文化部 地域観光課 観光交流グループリーダー 木田 博人
【最終評価者】	生活文化部 地域観光課長 木田 博人

(参考: 前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	B	B			
	成果	B	B			